

主体的に読む力を育てる国語科教育

—言語活動の充実を通して—

1. 設定理由

本校学校教育目標「自ら学び 豊かに関わり合い たくましく生きる児童の育成」のためには、主体的に考え、行動する力が必要である。しかし、本校の子どもたちは自分の考えをもって、判断・行動することが苦手な傾向にある。国語科では、「読むこと」を通して、その力を付けていきたいと考えた。

そこで、言語活動の精選、単元計画の工夫、並行読書の本の選定の3つの視点で学習活動を工夫し、課題意識をもって読み進めていくことが、主体的に読む児童の育成につながると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

仮説1：適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つけたい力」を身に付けさせることができるだろう。

仮説2：読みの視点を明確にすることで、児童が内容や要旨にせまりやすくなり、読みの広がりや深まりが期待できるだろう。

3. 研究内容

○2年生「わにのおじいさんのたからもの」

①『物語を「大体から細部へ」読む』実践

②『「すてきひょうげんブック」を生かして続き話を書く』実践

○5年生「大造じいさんとがん」

①「ライブラリーナビ」を用いた読みの交流の実践

②「読みの視点」を絞った読みの実践

4. 結論

○単元計画を工夫することで、目的意識をもち読み進めることができた。

○交流活動のなかで、お互いの意見や考えを聞きあうことで、物語の内容を深く読むことができた。

○「読みの視点」を子どもたちに明示することにより、課題をはっきりつかみ、主体的に読み深めることができた。

印旛支部

佐倉市立志津小学校

高橋 貴子

菅野 千暁

1 研究主題

「主体的に読む力を育てる国語科教育～言語活動の充実を通して～」

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、「自ら学び 豊かに関わり合い たくましく生きる児童の育成」である。

「豊かに関わり合い」とは、周りの人より良い関係を築いていくことである。相手を思いやって、協力することや相手の考えを聞き、話し合い、自分の考えをもつこと、そして、それを発信することでさらに自己が磨かれていくものとする。また、自分の感情を言語化していくことで、心はいつそう豊かになっていくだろう。「たくましく生きる」には、主体的に考え、行動する力が必要である。『日ごろの学習に課題意識をもつ』こと、『自己を表現する言語力を付け、相手のことを理解したり、自分の考えを伝えたりすることにより、よりよい関係を築いていく』ことにより、その力を付けることができるだろう。

(2) 学習指導要領から

小学校学習指導要領では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」という目標が掲げられている。また、『小学校学習指導要領解説 国語編』には、「前段では、国語の能力の根幹となる、国語による表現力と理解力とを育成することが、国語科の最も基本的な目標であることを述べている。」とある。この能力は、学習活動全般の礎となる力である。この力が生きて働くことで、学習活動が充実し、それに伴い、児童相互のコミュニケーション能力の向上につながっていくと考える。学校生活において、必要不可欠な能力である。

また、新学習指導要領の「国語科」の改訂のポイントでは、言語力育成の中核を担う教科として、生活や学習に必要な能力を身に付けるため、言語活動を「内容の取扱い」から「内容」に格上げし、充実を図っている。ますます、国語科が重要視されていると考える。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、明るく活動的で、新しいことに興味をもち、何事にも楽しんで取り組むことができる。しかし、自分の考えをもって、判断・行動することが苦手な傾向にある。また、自分の気持ちや考えを相手に分かるように伝える力が十分ではない。3年間の研究の前半では、前年度の「読む」の項目が県平均を下回っていた。そのため、「読む」に関する研究を始めた。

国語科アンケートの結果からは、「物語」と「説明文」に関する質問では、7割以上の児童が「読みたい」などの肯定的な回答をしている。その理由として、物語に関しては「いろいろな展開がある」など、説明文に関しては、「新しいことを知ることができる」などが挙げられた。逆に、あまり肯定的でない回答をしている理由としては、「文章が長い」などが挙げられた。長い文章を読む基礎的な力やいろいろな読みの技法を身に付ける必要がある。

また、感想を書いたり、成果物を紹介したりすることに関する質問では、「自分の意見を聞いてほしい」など前向きな回答が挙げられた。しかし、「自信がない」などの回答も見られた。進んで友達と交流でき

る場を設定し、その良さを生かし、国語の学習に意欲的に取り組む子どもたちになってほしいと考える。よって、「主体的に読む力」を身に付けさせたいと考え、本主題で取り組んでいくことにした。

3 研究主題について

「主体的に読む力」とは、課題意識をもって読むことにより付いていくと考える。教材文を読む際には、①どのような視点で読んでいくのか ②見通しをもち、どのように学習がつながっているのか ③ゴールをはっきりとイメージし、何のために読んでいくのかを意識できるようにさせたい。そのためには、(1)教材文の特性を生かした言語活動を選ぶ (2)「つけたい力」を効果的に付けるための単元計画を工夫する (3)並行読書で「必要な本」を選定し、児童が自ら本を手に取り、進んで読むことができる環境を整える、の3点が必要と考える。

4 研究仮説について

仮説1

適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つけたい力」を身に付けさせることができるだろう。

<手立て>

授業でのとりくみ

① 適切な言語活動の精選

- ・手紙・詩・物語・作文・続き話・短歌・俳句・川柳・標語・かるた・紙芝居・新聞・巻物・劇・ペーパーアート・立体パンフレット・小冊子パンフレット・リーフレット・ポップ・座談会・依頼状・案内状・礼状・ポスター・報告文・パネルディスカッション、などから設定する。

② 単元計画の工夫

- ・「入れ子式」「ABワンセット方式」などを取り入れ、単元構成をする。
- ・並行読書を取り入れるタイミングを考える。
- ・交流活動（ペアで・グループで・学級全体で・他学年に・保護者に）を取り入れる。
- ・単元のゴールをはっきりとイメージできるようにさせてから学習に入る。場合によっては、モデルを提示する。
- ・音読の仕方の工夫

学校全体でのとりくみ

読解力の基礎作り

- ・基礎となる「読む力」を習得させるため、読解プリントを使い、短い文章から読み慣れていくようにさせる。
- ・ドリルタイムの始めに全校で音読を実施することにより、学習にめりはりを付け、声をよく出せるようにさせる。また、文学作品の表現の良さにも気付かせる。

（「吾輩は猫である」・「平家物語」・「竹取物語」・「徒然草」・「寿限無」・季節の百人一首など）

仮説 2

読みの視点を明確にすることで、児童が内容や要旨にせまりやすくなり、読みの広がりや深まりが期待できるだろう。

<手立て>

授業でのとりくみ

① 「読みの視点」の明確化

- ・教材文の学習の際に「読みの視点」を明示する。

登場人物のしたことを追う（1年）

人柄が分かる表現を見つける（2年）

「人物関係図」「美しい一文」「クライマックス」などについて読む（5年）

行動と人物像から生き方を読みとる（6年）など

② 並行読書

- ・「読みの視点」を生かせるような本の選定をする。
- ・単元に関連した本を集め、児童が手に取りやすい場所（教室や学年廊下）へ資料を置く。
- ・学校図書館での授業の推進や学校図書館の本を活用した授業を行うようにする。
- ・毎月の学校図書館活用の提案を参考にし、本の選定をする。

学校全体でのとりくみ

- ① 朝読書の充実
- ② 読書記録を付けて、足跡を残す
- ③ 学校図書館司書の活用
- ④ 図書ボランティアや地域のお話会との連携
- ⑤ 市や地域の図書館の活用

学習の実際 < 2年生 >

単元名	わにのおじいさんのたからもの
つけたい力	登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読む力
言語活動	続き冒険話を作ろう
読みの視点	人柄が分かる表現を見付ける

単元計画～物語の大体から細部へ～ 仮説 1 (資料P 1-①)

I 話の全体をとらえる

『国語授業の教科書 白石 純孝著』を参考に学習計画を立てた。

- ①言葉の意味を辞書などで確認していった。
- ②三部構成につながる「時(季節)」「場所」を確認する。今まで児童が曖昧になっていた「中心人物」「対人物」などの物語の用語をおさえた。
- ③ならべかえゲームで、話のあらすじをつかむ。物語を構成する主要な文を短冊にし、それらを順番通りに並べられるか確かめた。
- ④「逆思考の読み」で、物語の後ろから因果関係をとらえた。(資料P 1-②)

II 文章表現の細部について、読み進める

- ⑤⑥「おにの子がしたこと・考えたこと」に線を引く。その中で、「おにの子の人柄が分かる表現」を「おじいさんがたからものをあげた理由」としてとらえていった。
- ⑦「おもしろい表現(表現の工夫)」で、「季節」「くりかえし」「ほんたいことば」「たとえ」の表現に注目させた。続き話に生かせるよう、表現を学習したワークシートを「すてきひょうげんブック」に書き留めていった。(資料P 2-③)
- ⑧本時では、おにの子が夕やけを見る場面を取り上げた。夕やけの美しさが伝わってくる文を選んで交流する。「～ほどうつくしい」「思わず」「世界中でいちばん」など表現の工夫に気付く。

音読の仕方の工夫 仮説 1 (資料P 3-④)

学習を進めるにあたり、全員が教材文の内容を把握できるように、音読の仕方の工夫を取り入れた。『「考える音読」の授業 文学アイデア50 桂 聖 編著』参考。以下、枠内は引用。

「たけのこ読み」

自分の読みたい文を決めて音読することで、言葉のまとまりを意識して読めるようになります。

(たけのこ読みのやり方)

- ・マルごとに読む人が交代する。
- ・読みたい文を選び、その文になると立って音読する。何度挑戦してもよい。
- ・クラスのみんなで最後まで続けなければならない。だれもいないときには様子を見て、必ずだれかが音読する。

たけのこ読みをすることで、友だちと読むことを楽しむことができた。そのうちに、音読の苦手な児童が言葉のまとまりをとらえられるようになってきた。また、自分や友だちの好きな場面を意識しながら、読んでいた。

「ぼく・わたし読み」

登場人物に「ぼく」や「わたし」を入れて音読することで、視点人物を見分けることができます。

視点人物は、「わにのおじいさん」なのか？「おにの子」なのか？題名から、おじいさんが視点人物と勘違いしそうになる。そこで、「おにの子」を「ぼく」に変えて読んでみた。

児童は、「わにのおじいさん」を「ぼく（わし）」に変えた違和感や、中心人物の定義「お話の中でいちばん心が変わった人」「語り手がずっと追っていく人」から「おにの子」が中心人物ととらえることができた。

「挿絵提示読み」

挿絵を見せながら、紙芝居のように音読することで、場面の分かれ目をつかむことができます。

「まだ、早い。」「今だよ！」のような声が入るようになり、本文の描写と挿絵を対応させて読むようになった。

目的意識をもてる交流活動 仮説 1 (資料 P 3-⑤)

本単元の学習のゴールとして、続き冒険話を書くことを設定した。また、書き上げた話を 5 年生に紹介する交流活動を行った。兄弟学年ということで、多少の交流があったため、程良い緊張感を持ち学習を進めることができた。学習の最初にゴールについて話しておいたため、「気を付けて書こう。」「しっかり書き上げないと。」という気持ちをもつことができた。

【5年生の感想から】

- ・「さくらがひらひらまいちっています。」のところでは、時がたち、きせつがかわっていることがわかりました。
- ・自分で作った話は、教科書に書いてあることを見本にして書けていました。
- ・「こおりになってしまいそうです。」というところがすごくさむいかんじで表現が上手。

(児童の原文のまま)

読みの視点を与える 仮説 2

本単元では、「人物の人柄が分かる表現」「表現の工夫」の二点から教材文を読み進め、「すてきひょうげんブック」としてまとめていった。朝読書や授業での並行読書の際にも、この二点に注目して、付箋を貼りながら、書きまとめていった。続き話を書く際、教材文で学習したことを生かせるようにした。本時では、クライマックスの場面を扱い、「おにの子がしたこと・思ったこと」

から、「夕やけの美しさ」が児童に伝わり、おにの子が夕やけを宝物と思った気持ち（人柄）を読み取れると考えた。また、続き話に生かせるよう、別の写真を提示し、本文に出てくる表現の工夫を真似して書く活動を行った。

成果と課題 (資料P4-⑥⑦・P5-⑧・P6-⑨)

仮説1

適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つきたい力」を身に付けさせることができるだろう。

- 音読の仕方を工夫したことで、児童が飽きずに読むことができ、物語の内容をしっかりとらえることができた。
- 物語の大体から細部に読み進めていったことにより、苦手な児童も基本を同じくして「読み」を深め合うことができた。
- 5年生に褒められ、良い気分での学習を終えることができ、学習への意欲が高まった。
- ▲一斉に読み進めていっても、苦手な児童は進んで書くことが難しいので、工夫が必要である。
- ▲続き話がスムーズに書けないと思い、「すてきひょうげんブック」に書き留めたが、言語活動が複数ある形になってしまった。

仮説2

読みの視点を明確にすることで、児童が内容や要旨にせまりやすくなり、読みの広がりや深まりが期待できるだろう。

- 「読みの視点」を与えたことにより、教材文・並行読書にしても、児童がポイントをしぼって読むことができた。
- 並行読書の本に児童が読みながら貼った付箋をそのままにしておいたため、苦手な児童も読みの視点に着目することができた。
- 内容の面白さだけでなく、表現の工夫に気が付く児童が増えた。
- ▲「読みの視点」を与えてはみたが、判別するのはなかなか難しく見当違いの箇所を書いている児童がいた。
- ▲並行読書にふさわしい選書が難しかった。全て読み、内容を把握することが難しく、児童に適切なアドバイスをすることができなかった。

学習の実際 < 5年生 >

単元名	大造じいさんとがん
つけたい力	作品のクライマックスを中心に読み深め、作品の魅力について考えたことをまとめ表現する力
言語活動	ライブラリーナビ
読みの視点(観点)	①人物関係図 ②美しい一文(情景描写) ③クライマックス ④主題

単元構成の工夫 仮説1 (資料P7-⑩)

共通教材「大造じいさんとがん」と自分で選んだ椋鳩十の作品の学習を交互に行ってまとめていく。指導のねらいや学習に必要な時間によって1単位時間ずつ交互に学習したり、1単位時間の中で共通教材と選んだ作品を学習したりした。「大造じいさんとがん」で学習した読みの観点をすぐに自分で選んだ作品に生かすことで、進んでまとめることができた。

単元のゴールをはっきり示す 仮説1 (資料P7-⑪)

授業の始めに教員が作成したライブラリーナビのモデルを児童に提示する。それを教室に常に掲示したり、コピーをして一人一つ児童の手元に置かせたりして、単元のゴールを明確にイメージさせる。

読みの視点(観点)の選定 仮説2 (資料P8-⑫⑬)

何をライブラリーナビの中でまとめたいか児童にアンケートを取り、まとめる観点の参考とした。

「大造じいさんとがん」と「自分で選んだ椋鳩十作品」については、「クライマックス」を中心に作品を読み取らせたいと考えた。今回は、読みの観点を「人物関係図」「美しい一文(情景描写)」「クライマックス」「主題」にしぼった。

山場

物語の四つの部(冒頭・展開・山場・結末)の中で最も緊迫した場面である。

クライマックス

山場の中に最高潮の点として存在し、物語において、感想や緊張が最も高まる部分。

主題

作品の中にある作者の思想内容のこと。

～『国語授業を変える「用語」』白石 範孝 編著～

単元計画に沿って、1観点ずつ埋めていった。読みの観点ごと全て記入した後、同じグループの友だちや、他の作品を選んだ友だちと紹介し合い、感想を書き合った。

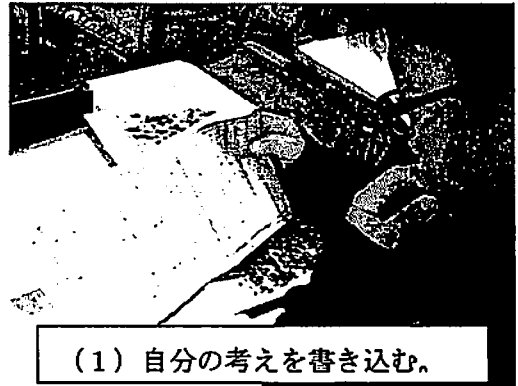
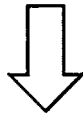
交流活動の工夫 仮説 1

児童の実態として、自分で作ったものを推薦したり、本の内容を伝え合ったりする活動を好む児童が少なかった。そこで今回は、同じ本を読んだグループで読みの視点（観点）（①人物関係図、②美しい一文（情景描写）、③クライマックス、④主題）ごとに話し合う時間を設定し、スモールステップでライブラリーナビを完成させていくことにした。自分で読みを深める時間を大切に、自分で観点ごとに読み取ったことをノートに書き、その後に同じ作品のグループのメンバーで集まり、全文シートに自分の読みを付箋に書き込み貼っていった。貼った付箋を読みの交流の手立てとして読みを深めていった。

その後、違う作品をまとめた友だちと交流した。

（1）個で活動

自分の選んだ本に考えを書き込みながら、観点ごとにノートにまとめる。



（1）自分の考えを書き込む。

（2）グループ交流 その1

同じ物語のグループのメンバーで集まり、全文シートに自分で考えた文や理由を書いた付箋を貼っていく。



全文シート
作品の文全部を、1枚にまとめて用意した。

- ・なぜこの文にしたのか、理由を話し合ったり、意見交換をしたりして、考えを深めることができた。
- ・自分の意見を①の時点でもっているの、積極的に意見交換をすることができていた。
- ・下位の児童は友達の見聞を聞いたり、確認し合ったりすることで③での活動に自信をもって取り組めた。



（3）個でライブラリーナビの作成

各自でライブラリーナビにまとめる。



（4）グループ交流 その2

各自で作ったライブラリーナビをもって、違う作品の友達と交流。



（2）班で意見を出し合い1枚の紙の中に書き入れ、読みを深めていく。

並行読書した本からの選定 仮説 2 (資料 P 9-⑭)

教科書では、心情曲線と作品の構造から「山場」について考えた。そして、山場から発展し、「クライマックス」を読みを中心にしていた。

椋鳩十の作品を教室に置いておき、児童がすぐ手に取れる環境を整えた。佐倉市図書館を活用し、60冊程度の用意をした。

「大造じいさんとがん」を教材文として選び、椋鳩十の「大造じいさんとがん」以外の作品60冊程度の中から、ライブラリーナビをまとめる作品を選定することにした。児童が「おすすめシール」を多く貼った作品の中に、ライブラリーナビの観点が存在するかを、教員が読んで確かめたうえで7作品にしぼった。

成果と課題

仮説 1

適切な言語活動を設定し、単元計画を工夫すれば、「つけたい力」を身に付けさせることができるだろう。

○ライブラリーナビを効果的に活用し、読み深めることができた。並行読書の読みでも、ライブラリーナビの進め方を生かして、作品の魅力をまとめることができた。また、その後の学習（「雪わたり」「川とノリオ」）でもライブラリーナビの技法で、自分で読み進めることができるようになった。

○どう読み取るのか分からない児童でも、観点ごとに読みを交流することにより、自分の読みを構築することができ、友だちに紹介することができた。

○まとめる内容により、ABワンセット方式と入れ子式を使い分けたことが効果的であった。

○自分で選んだ本の読みでも、前に学習した各観点の読みをいかしてまとめることができた。スモールステップで取り組んだことがよかった。

▲入れ子式で学習を進めた時は、時間に余裕がなかった。読む範囲をしぼるなどの工夫が必要であった。

仮説 2

読みの視点を明確にすることで、児童が内容や要旨にせまりやすくなり、読みの広がりや深まりが期待できるだろう。

○椋鳩十の作品の選定やライブラリーナビにまとめる観点を、児童の意見や思いから決定することを知らせたため、意欲的に読むことができた。

○「読みの視点」を①人物関係図、②美しい一文（情景描写）、③クライマックス、④主題、の4つにしぼることで、児童が進んで読むことができた。

▲意欲的に並行読書に取り組むためには、一人一冊以上の本を確保する必要があった。

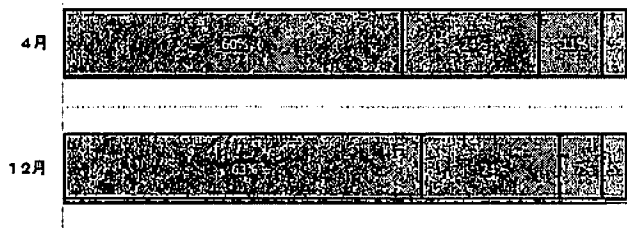
▲並行読書の進度に差が出てしまったので、苦手な児童には、読解力に合わせた本を紹介するととりくみやすかったかもしれない。

成果と課題

アンケート結果と考察

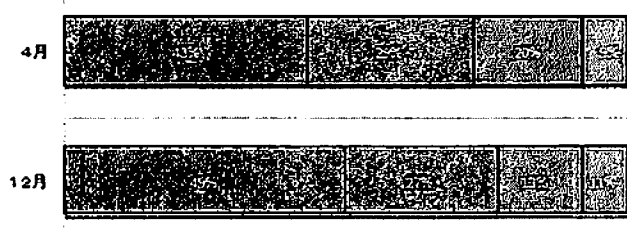
物語文を読みたいと思いますか？

■思う ■どちらかといえば思う □どちらかといえば思わない □思わない



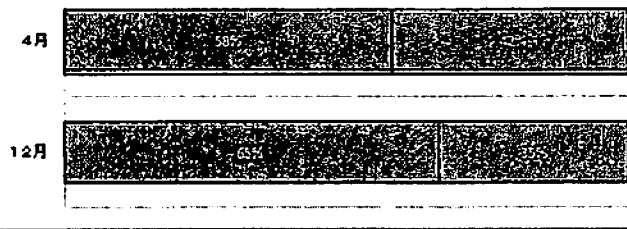
説明文を読みたいと思いますか？

■思う □どちらかといえば思う □どちらかといえば思わない □思わない



国語の授業で自分の書いたもの、作ったものを紹介したいですか？

□はい □いいえ



《考察》

- ・物語文を好む児童が、全体的に増えたことが分かる。単元計画の工夫により、学習についての見通しをもてたことが大きいと考える。
- ・説明文を読みたい・どちらかと言えば読みたいと答えた児童が増えた。構成や接続語に注目して、読むことができるようになってきた成果だと考える。
- ・良い作品ができたにもかかわらず、約3分の1の児童は、紹介することに抵抗がある。今後の課題としたい。

成果

《仮説1》

- ・単元のゴールを目指して、頑張ることができるよう児童が増えた。
- ・単元計画を立てる際に、始めに内容の大体をとらえる活動を行うことで、最後まで読みの視点を意識することができた。
- ・単元計画を通して、交流するメンバーを工夫することで、常に相手意識をもって読み進めることができた。
- ・「つけたい力」に合わせた言語活動を設定することで、読みの視点がはっきりし、読みを進めることができた。

《仮説2》

- ・読みの視点を明確にすることにより、進んで学習にも読書にも取り組むことができた。
- ・児童が手に取りやすい場所に並行読書の本を置いたため、普段読まない本も手に取るようになり、読書の幅が広がった。

課題

《仮説1》

- ・「つけたい力」に合った言語活動や単元計画をできるだけメンバーで立てていくべきである。

《仮説2》

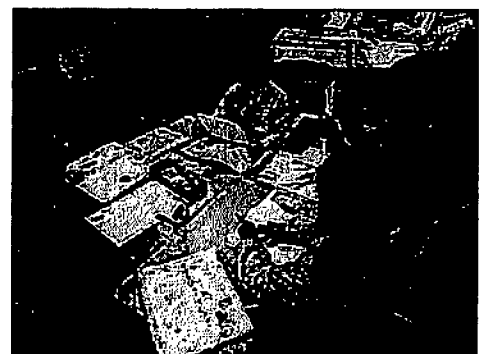
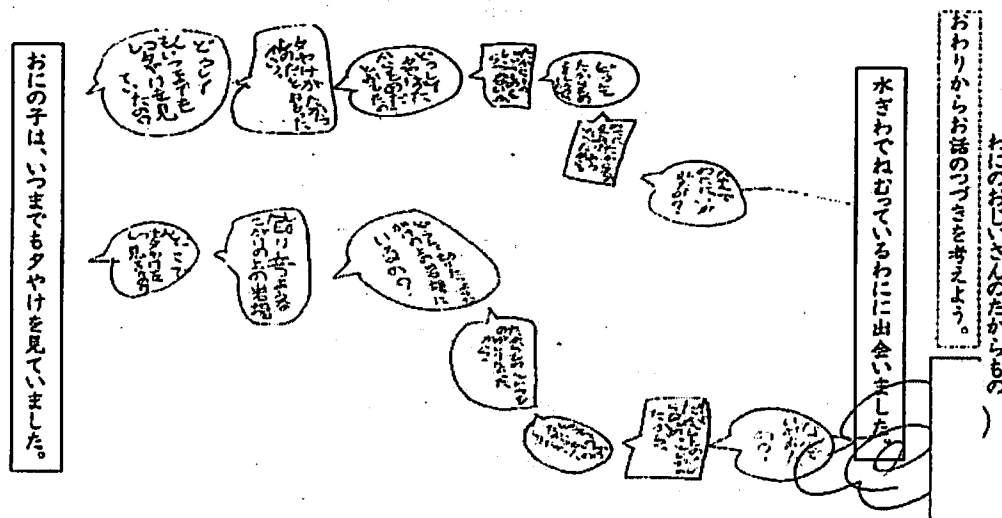
- ・個々の読解力により並行読書の進捗に差が出てしまった。児童一人一人の読解力に合わせて本を提示するために、一学校図書館司書との更なる連携が必要になる。
- ・意欲的に並行読書に取り組むためには、一人一冊の本を確保する必要がある。
- ・本の選択について、教師が把握しきれなかったり、全て読めていなかったりするとアドバイスが難しい。

資料 <2年生>

資料① 学習計画表

- ↓「わにのおじいさんのたからもの」学習計画↓
- お話のできごとを知ろう
- ①言葉の意味をかくにんしよう。
 - ②とう場人ぶつについて考えよう。
(時・場しよ・中心人ぶつ・たい人ぶつ・語り手)
 - ③「はじめ」「中」「おわり」の三ぶこうせいを考えよう。
 - ④ならべかえゲームで話のじゅんばんを考えよう。
 - ⑤おわりから、お話のつながりを考えよう。
 - ⑥お話を一文でまとめよう。
 - ⑦とう場人ぶつについて知ろう
 - ⑧おにの子の人がらをしらべよう。
 - ⑨おじいさんがたからものをあげた理由を考えよう。
 - ⑩おもしろいひょうげんを見つけよう。
 - ⑪タやけのひょうげんについて考えよう。
 - ⑫どんなお話だったのかふりかえろう。
 - ⑬つぎぼうけん話を書こう
 - ⑭⑮「すてきひょうげんブック」をもって
 - ⑯つぎぼうけん話を書こう。
 - ⑰五年生にしようかいしよう。

資料② 逆思考の読み 児童ワークシート



《班で読みの交流を行う》

資料③ おもしろい表現（表現の工夫）

くりかえしのひょうげん
もとの文

そして、しばらくまじまじとおにの子のかおを見ていましたが、やがて、そのしわしわくちやくちやくちのかおで、こっとしました。

しかけ文

そして、しばらくまじまじとおにの子のかおを見ていましたが、やがて、そのしわくちやくちのかおで、にこっとしました。

おじいさんじゃなくなっちゃった！

くりかえしたほうがかんじが出るよ！

びちゃびちゃ
ぐちゃぐちゃ

ふわふわ
もこもこ

はんたいことば
しかけ文

わにのおじいさんに言われて、おにの子はおじいさんのせなかのしわのない地図を、しわ紙にかきうつしました。

もとの文

わにのおじいさんに言われて、おにの子はおじいさんのせなかのしわ地図を、しわのない紙にかきうつしました。

おじいさんぼくはない。

読む人がたのしい！

ようすがよくわかる。

はっぱだと、ちくちく
はっぱのふとんだと、
ふかふか。

ふとんでは、あったかいけど
はっぱだとさむそう。

はっぱがつみあがっている
かんじ。

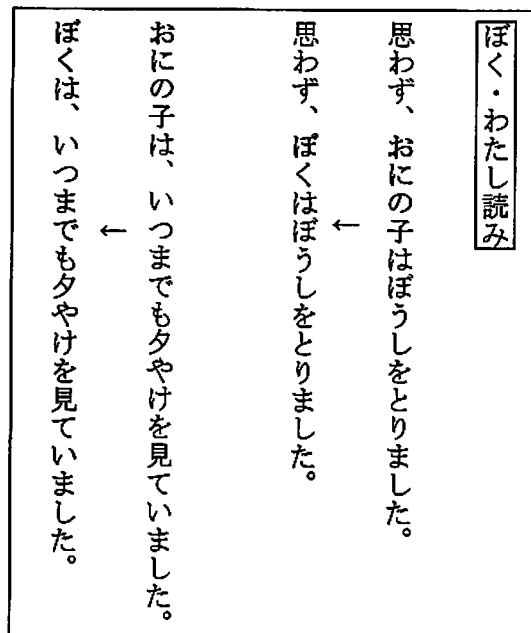
たとえ
しかけ文

「では、行っておいで。わたしは、このはっぱでもうひとねむりする。」

もとの文

「では、行っておいで。わたしは、このはっぱのふとんでもうひとねむりする。」

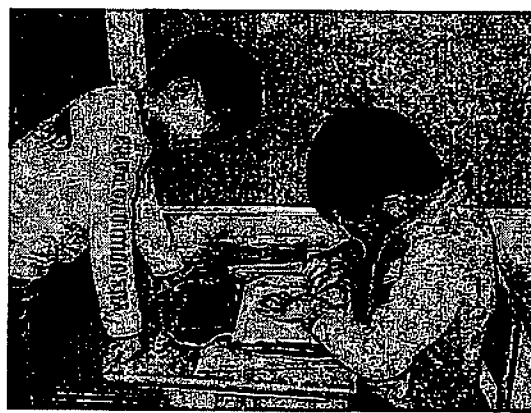
資料④ 音読の仕方の工夫



資料⑤ 目的意識をもてる交流活動



《5年生に読み聞かせている》



《5年生に感想を書いてもらう》



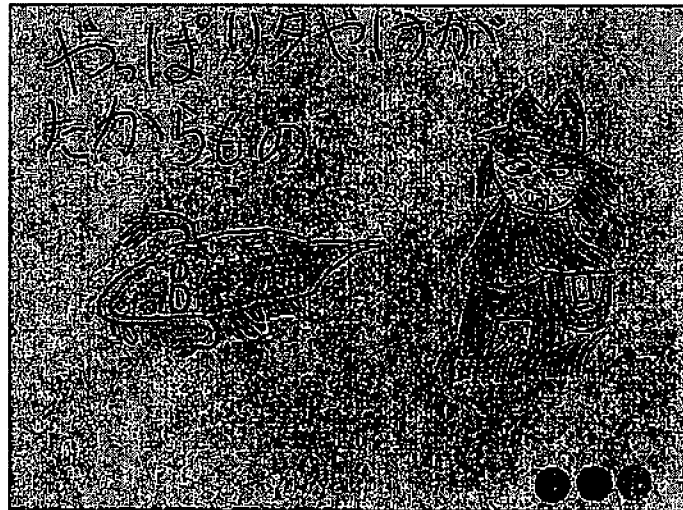
《すてきひょうげんブック》



《本文に出てくる表現の工夫を真似して書く》

児童の続き話から

資料⑥ B児の続き話 表紙



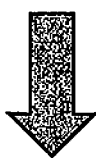
資料⑦ すてきひょうげんブックの内容

A児とC児のワークシート

「あつ、い」「二つめたい、い」
 「あつ、い」「二つめたい、い」
 「入口」「二つめたい、い」
 「あつ、い」「二つめたい、い」
 「入口」「二つめたい、い」

① わんたいごん
 ② わにのおじいさんに言われて、おにの子はおじいさんのせなかの地図を、壁にかまうつしました。
 ③ わにのおじいさんに言われて、おにの子はおじいさんのせなかのしわのなな地図を、壁にかまうつしました。
 ④ わにのおじいさんに言われて、おにの子はおじいさんのせなかのしわのなな地図を、壁にかまうつしました。

人物のせいがかつたわるひょうげん
 わにのおじいさんのたからもの おにの子 (やまこ) のせい
 おにの子はそのあたりの野山を歩いている地面におちている。ほおの木の大もみぢげんをひろってはおにのところに運びかからだのまわりをみ上げていました。
 ぼくはあなたがじいとしてうごかすからしておにがとれたのよ
 あのわにのおじいさん、おにのおじいさんですわ
 わにのおじいさん、おにのおじいさんですわ
 なのですわ
 だから、わにのおじいさんはたからものをあげようと思っただね!



資料⑨ **児童のアンケートから**

7月19日 (男子11名 女子12名 計23名)

11月20日 (男子11名 女子12名 計23名)

学習前	学習後
①お話を書いていて、楽しいことはどんなことですか。	
話を考える…8名 特になし…8名 友達の話を読む…4名 挿絵を描く…2名 どんな終わりにするか考える…1名	どんな話にするか考える…8名 特になし…6名 できたお話を紹介する…5名 長い文章を書く…1名 主人公らしさを考える…1名 褒めてもらえる…2名
②お話を書いていて、困ることはどんなことですか。	
特になし…13名 書く順番…2名 漢字や片仮名…1名 段落…1名 作文用紙の使い方…1名 未記入…5名	特になし…18名 句読点…2名 かぎかっこ…2名 書いているうちに分からなくなる…1名
③お話を書くとき、どんなことに気をつけていますか。(複数回答可)	
文字の間違い…9名 句読点…7名 とくになし…4名 文字の見やすさ…1名 かぎかっこ…1名 はじめ・なか・おわり…1名	句読点…9名 はんたいことば…9名 くりかえし…8名 人柄・性格…8名 たとえ…6名 三部構成…6名 かぎかっこ…6名 季節…5名

【5年生に読んでもらって思ったこと】

- 褒めてくれたのでうれしかった……………10名
- 聞いてもらってうれしかった……………5名
- 最後まで聞いてくれた……………2名
- 自信がついた……………1名
- 「できたな」という気持ちがあった………1名
- 聞いてもらいたいと思うようになった…1名
- 国語が好きになった……………1名

資料 < 5年生 >

資料⑩ 単元計画の工夫

十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	時間	
		同じ本を	読んでいる	友達と読みの	読みの	読みの	読みの	読みの	読みの	読みの	学習内容	
○別の作品を読んだ友達とライブラリーナビで感想十の作品を推せんし合う。○読みたくなかった本を読む。	○別の作品を読んだ友達とライブラリーナビで感想十の作品を推せんし合う。	ライマックスや感動した場面から主題を考えてまとめる。	ライマックスや感動した場面から主題を考えてまとめる。	ライマックスや感動した場面から主題を考えてまとめる。	ライマックスや感動した場面から主題を考えてまとめる。	ライマックスや感動した場面から主題を考えてまとめる。	ライマックスや感動した場面から主題を考えてまとめる。	ライマックスや感動した場面から主題を考えてまとめる。	ライマックスや感動した場面から主題を考えてまとめる。	ライマックスや感動した場面から主題を考えてまとめる。	○ライブラリーナビを知る。 ○学習計画を立てる。 ○並行読書する本を決めて読む。 大造じいさんとがんを読んで感想を書く。 ○人物関係図 ○クライマックス ○大造じいさんとがん ○美しい一文、 ○主題	学習内容

項目ごとに「大造じいさんとがん」と「選んだ本」を学習する。

(例) 「大造じいさんとがん」

人物関係図


↓

「選んだ本」

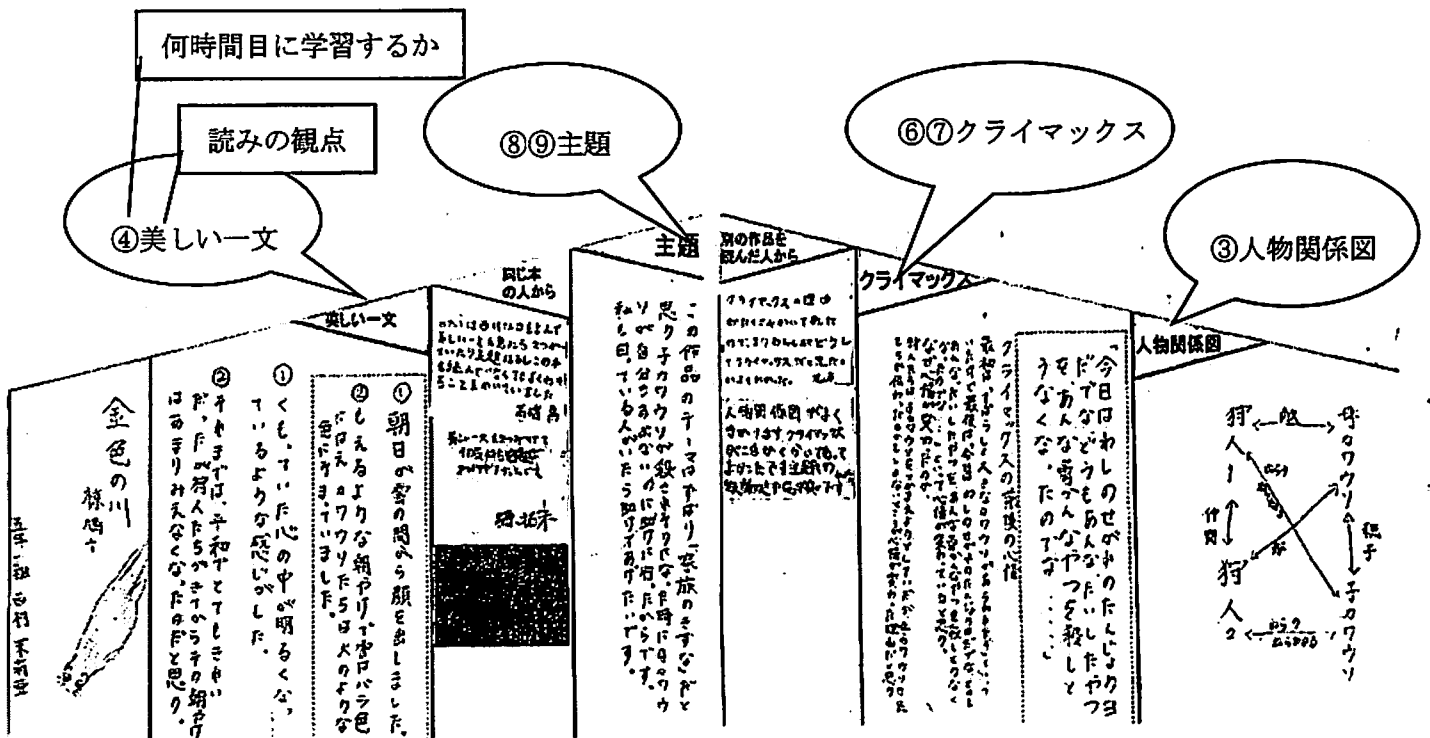
人物関係図

《単元計画》教室に掲示

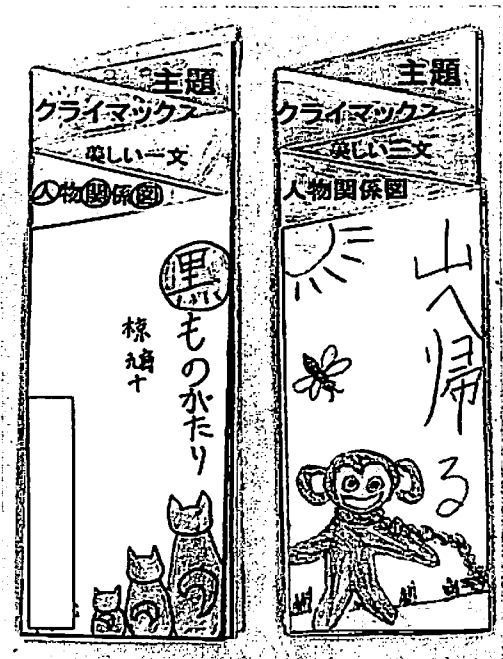
資料⑪ ライブラリーナビのモデル

ライブラリーナビ表面	ライブラリーナビ裏面
<p>片耳の大シカ 榎 祐十 五年一組 ○○○○</p> 	<p>主題 片耳の大シカ 選んだ人から</p> <p>ふせん1 ふせん2 ふせん3</p> <p>クライマックス 今までは、おじいさんたちとシカをいじめたおじいさん。ただの獲物として見ていたが、シカに思いつく以上の存在のように感じている。そのクライマックス前後の心情、それはおじいさんたちの罪に助けられ、あらしめさせずいづつと、敵も味方も関係なく助けられたことに強く心を動かされたからだと思う。↑(なぜかわつたか理由)</p> <p>人物関係図 2類の本&2選定本 シカ狩り名人 少年 次郎おじいさん おじいさん 少年 片耳の大シカ シカの友 保護でやられて片耳がない 片耳のやり口を覚えてる</p>

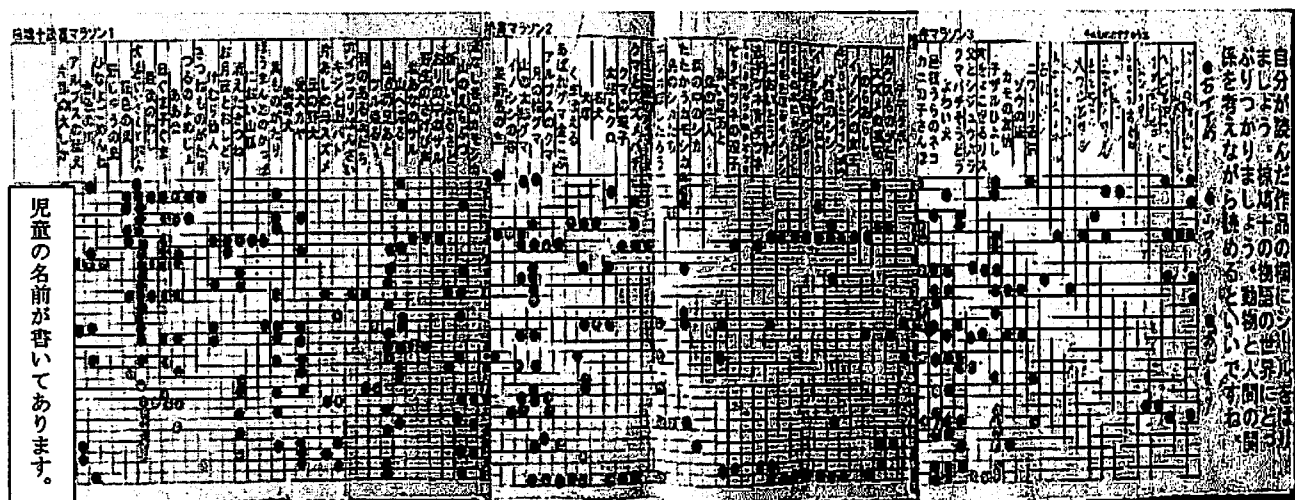
資料⑫ ライブラリーナビ (完成)



資料⑬ ライブラリーナビを折りたたんだもの



資料⑭ 椋鳩十作品 感想シール表



「大造じいさんとがん」の学習が始まる前から、椋鳩十作品と一緒に教室後方に掲示した。

読んだ後に
「おすすめ」
「ふつう」
「あんまり」のシールを貼る